

令和5年度 学校努力点について

1 主 題 自ら課題を解決できる大坪っ子

～ ふりカエル 見つかる 次の学び ～

2 主題について

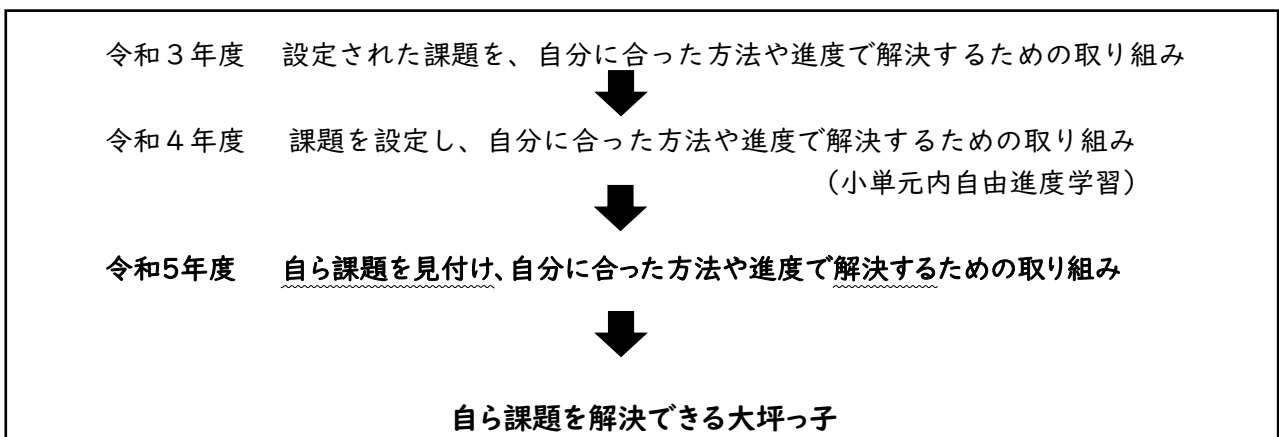
現行の学習指導要領では、児童の獲得した知識や技能が他の学習や生活の場面でも活用できる、生きて働く知識や技能となることが重視されている。そして、知識や技能を活用するために必要な力として「思考力、判断力、表現力等」が挙げられている。この「思考力、判断力、表現力等」が高まることで、多様化された現代社会において、様々な困難に直面したとき、自ら課題を見付け、それを解決して力強く生きていくことができるようになると考えられている。

本校では、令和3年度より3年間の計画で「自ら課題を解決できる大坪っ子」を目指して研究を進めており、全ての児童に対して一人一人の進度や能力、関心に応じた個別最適化された学び（単元内自由進度学習）を提供することで、児童が自ら自分に合った課題を見付け、その課題を自分に合った方法や進度で解決することができるようにしていきたいと考える。そのために必要なことは「①児童の興味・関心を高める教材を工夫し、児童が一人一人学ぶ課題を設定できるようにすること」「②ICT 機器の活用やグループ活動などを通して、児童が自分に合った方法や進度で学びを進められるようにすること」「③1時間毎や単元を通して、何をどのように学んだか児童が学びの振り返りを行うことで、今後への生かし方が分かるようにすること」である。

令和3年度は、1時間の授業内で、ICT 機器の活用やグループ活動などを通して、児童が自分に合った方法や進度で学びを進められる姿を引き出すことができた。また、令和4年度は、3～4時間の小単元内で、何をどのように学んだか児童が学びの振り返りを今後へ生かして、設定した課題を自分に合った方法や進度で解決できる姿を目指して研究に取り組み、自分に合った方法や進度で課題を解決する姿が見られた。しかし、小単元を子どもたちだけで進めることが困難である実態も見られた。また、学びの振り返りを生かして次時の課題を設定することにつまずく子どもの姿も見られた。その原因として、学びの振り返りの際に、子どもが自分の学びについてよかった点や悪かった点を認識すること（自己省察）ができていなかったり、自分の学び方を調整したり、再挑戦したり、目標を修正したりすること（自己調整）ができていなかったためであると考えられる。

そこで、本年度（令和5年度）は、振り返りの際に「個々の気づき・考えたことや、新たな疑問を、表現すること」ができるような振り返りの工夫をしていくことで、自ら課題を見付け、自分に合った方法や進度で解決することができる児童像に迫っていきたいと考える。

3 3年間の流れ



4 今年度の実践内容

○ 自ら課題を設定し、自分に合った方法や進度で解決するための取り組み

① 自分に合った方法や進度で解決させるために

- ・ 個々の児童に合った学習を行うためのICT機器などの教具の活用
- ・ ペア、グループ活動を通して、学習内容や学習方法を共有させるための工夫

② 自ら課題を設定することができるようにするための取り組み

- ・ 以下の3つのステップを基本として学びの振り返りを行う。

(1) 授業の感想を尋ねる。

(2) 感情を抱いた理由を問う。

(3) 感情をよい方向に向ける、あるいは維持するためにどのようにしたらよいかを考えさせる。